

伝統的な建物配置や敷地構成の居住環境の再建への影響  
—2006年ジャワ島中部地震被災地であるプレンプタン集落を事例として—  
日本建築学会計画系論文集/ No. 639/ pp. 1075-1083/ 2009年5月

正会員 山崎 義人 君

2006年インドネシアジャワ島中部地震における復興を対象としてプレンプタン集落の敷地単位の住宅再建プロセスを通じた住まい方、住宅の変化を丹念におった論文である。被災前の伝統的な住宅配置を再現した上で、仮設住宅、恒久住宅建設の再建過程の中で、住宅配置や敷地内の空間構成にどのような変化があったかを明らかにし、住宅再建が伝統的な住宅形態・住まい方にまで影響を与えたことを実証している。

プレンプタン集落という一例を対象とする論文ではあるが、アジア地域の農漁山村の復興においてコミュニティベースの現地復興が潮流であることをふまえると、本論文で得られた知見は一定の一般性を有するものとみなされる。論文の内容の完成度は高く、特に丹念な調査と分析は卓越しており、奨励賞に相応しいと評価できる。本論文も含む一連の研究プロジェクトの今後の更なる成果が期待される。